



未来ネットワーク通信

ひがの義幸 県政だより

新春号

編集発行：ひがの義幸後援会総連合会
 発行日：令和3年(2021年)1月1日
 編集責任者：高田良久
 事務局：〒328-0075 栃木県栃木市箱森町7-9
 TEL 0282-23-8855
 FAX 0282-23-8856

新年のご挨拶

皆様、あけましておめでとうございます。

さて、令和3年(2021)は辛丑(かのと・うし)。「辛」は思い悩みながら、ゆっくりと衰退していくことや、痛みを伴う幕引きを意味し、「丑」は、発芽直前の曲がった芽が種子の硬い殻を破ろうとしている状態、種の中に今にもはち切れそうなくらい生命エネルギーが充満している状態で、命の息吹を表しているそうです。

何の幕が下ろされるでしょう。「平和」「平和」と言っていればアメリカが守ってくれた体制でしょうか。国民の多くが疲弊するグローバリズムでしょうか。そうだとすると、芽吹くのは、独立自存の精神と行動。「強い意志が試される」という辛丑の年、一致団結して、堅実に、慎重に、この町の暮らしを築いていくことができれば、と思います。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

総連合会会長 高田良久

ひがの義幸 命を守る コロナに負けない医療体制を維持



出典：とちぎメディカルセンターしもつがHP



議会で登壇・質問する日向野県議

令和2年度栃木県議会第366回臨時会議に、とちぎ自民党議員会を代表して質疑・質問に立ち、新型コロナウイルス感染症患者対応に追われ疲弊する医療従事者への支援、加えて風評被害にさらされ医療収入が激減し経営不振に追い込まれている、感染症受け入れ医療機関に対する支援等について、福田富一知事の考えを質しました。

結果、医療従事者の方々への慰労金の給付、「新型コロナウイルス感染症医療機関緊急提言安定化資金」(貸付限度10億円)を創設することができました。

さらに、新型コロナウイルス感染患者の受け入れに伴い、一般患者の受け入れを控え空床・休床を進めている医療機関に対し、本県独自の上乘せ補償制度を創設しました。

この補償制度により、風評被害による外来患者の落ち込みや、院内感染防止のための空床・休床を進めることにより医業収入が減少し、経営難に苦しんでいたTMC(とちぎメディカルセンター)に対し、空床補償1億6,700万円・休床補償6億2,400万円・合計7億3,100万円の支援を決定し、市民の健康と生命を支える地域医療を守ることが出来ました。

令和3年 新春の集い中止に!

令和2年12月1日に開催された後援会役員会で毎年恒例の2月11日開催予定の新春の集いは、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮して、中止を決定しました。

ご理解
 ください。



令和3年5月15日(土)講演会を栃木文化会館で開催予定!
 何が飛び出すかご期待ください!!

ひがの義幸 とちぎを守る

台風19号 水害復旧の進捗報告

流域治水に**347億円**を獲得！

令和元年東日本台風(台風19号)により県内全域にわたり甚大な被害に見舞われました。

全壊83棟・半壊5,233棟・一部損壊8,666棟と甚大な住家被害を受け、今まさに被災者の生活再建に向け県をあげて取り組みを進めています。さらに904ヶ所にも及ぶ公共土木施設が被害を受けました。

栃木市内では、栃木雨量観測所で最大24時間降雨量298mmを記録し、巴波川と永野川等の溢水により、住家8,003棟・非住家1,803件の甚大な被害が発生しました。

直近の4年間で2度の浸水被害に見舞われたこの地域を守るため、国、県、栃木市と協議検討を重ね、「水を逃す」「上流に貯める」「下流に送る」の3つの対策を進める事としました。

特に「水を逃す」ための取り組みとして、沼和田町地内 平成橋(JR両毛線)付近から大町地内原の橋(荒川合流点)までの2.4kmを蔵の街大通り等の地下10mに現在の巴波川と同規模の水を流す地下捷水路(直径5.5mの地下トンネル)を整備する方針を決定しました。

概算事業費 155億円 事業期間 令和3年度から令和7年度で進めてまいります。

加えて、今年の台風で被害拡大の引き金になってしまった永野川についても「河床を下げる」「河幅を広げる」「堤防を上げて強化する」を基本に、大平町西水代地内(国道50号)付近から皆川城内町地内(県道栃木佐野線)付近まで約12kmを改良復旧工事として実施することを決めました。既に工事は発注され、

事業費 192億円 事業期間 令和元年度から令和5年度で実施されます。

合わせて栃木土木事務所管内では、河川・橋梁・砂防・道路と186箇所の公共土木施設が被災を受け、現在順次、復旧・復興に向け管内建設業者の皆様が総力をあげ工事に着手しています。二度と同じような災害に見舞われる事のない様、全力で防災・減災事業を進めてまいります。



地下捷水路想像図

出典：関東地方整備局ホームページ



両毛線架橋付近の改修工事の様子

大平町川連 R2.12.15撮影



第3波を迎えたコロナ禍の中、後援会の皆様には何かとご苦勞の多いこととは思いますが、安全なワクチン接種の普及と新しい生活様式が定着して、1日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願ってやみません。

新しい年が後援会の皆様にとって、輝かしい年となりますようご祈念申し上げます。

栃木県議会議員 日向野義幸